



特定非営利活動法人

東京学芸大子ども未来研究所

Tokyo Gakugei Univ. Children Institute for the Future

# TECH未来通信

2021.OCT  
VOL.044



〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1  
東京学芸大学内20周年記念飯島同窓会館1階  
042-316-6645 [info@techmirai.jp](mailto:info@techmirai.jp)

## TECH未来を使ってきた先生方(その27)

### 三重県でのTECH未来

今回は、松阪市立久保中学校の土谷 明匡(つちたに あきまさ)先生にお話を伺いました。長年TECH未来をご活用くださり、授業実践例も報告していただいたことがあります!そんな土谷先生にインタビューしてきました。

ー現在、教員何年目ですか？

10年目です。

ーTECH未来を使用して何年目ですか？

4年目です。

ー具体的にTECH未来を使ってこれまでにどのような授業を実践してきましたか？

最初のうちは、ベーシックな授業として、ペットボトルを持ち上げたりするだけで精一杯でした。

最近では「松阪市に必要な電気自動車を開発しよう」という題材で、子どもたちが自ら松阪市について調べ、課題を見つけ、それを解決することができるような電気自動車を開発し、プレゼンテーションをするという授業実践をここ数年進めています。

子どもたちは、「少子高齢化」や「10万人当たりの交通事故死亡者数ワースト」「東西に広く、公共交通機関が貧弱で人口減少が止まらない」といった松阪市の現状を調べて知ることから始まり、それぞれが松阪市の問題を自分のこととして電気自動車を設計・製作を進めることができました。

完成した自動車の例としては「高齢者のためのバス」や「林業をするための作業車」「コロナ禍の今、配達が可能にできる車」「安全性を重視した車」のように、実社会の課題を子どもたちなりに考え、社会での必要性、安全性、経済性、環境性といった複数の視点からトレードオフをしながらTECH未来を活用し、試行錯誤しながら完成させることができました。

ー先日TECH未来オンライン研修会にもご参加くださいましたが、今後TECH未来でどんなことをしてみたいですか？

子どもたちが上記の実践(松阪市に必要な電気自動車を開発しよう)で作成した電気自動車を、計測・制御に関する技術を活用して制御することができるような流れの授業実践をしてみたいです。

また、松阪市に必要な電気自動車のプレゼンテーションを発信する場についても学校内だけでなく、社会へ向けて発信することができるような実践をしてみたいです。

ー最後に一言!

コロナ禍ではありますが、やれることを着実に、子どもたちと一緒にこれからも学び続けたいと思います!!これからもぜひよろしくをお願いします!



### 編集後記

様々な自動車が完成したのですね。一人ひとりが課題意識をもって、解決していく様子が浮かんできました。学校外への発信も楽しみにしております!ありがとうございました!